

秩父 今宮神社 年賀社報

(令和三年正月号)



年頭のご挨拶 今宮神社 宮司 塩谷 崇之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は当神社に格別の御尊神と御篤志を賜りまして誠にありがとうございます。

「辛丑」(かのとうし)の年頭にあたり、皆さまのますますの隆昌と安寧を心よりお祈り申し上げます。

今年の年賀社報は、丑年に因んで、昨年竣工



稻荷社
新社殿

した「今宮天満宮」脇に佇む「臥牛」の哀愁あるウシろ姿で表紙を飾ってみました。牛は天神さまの「神使」として知られています。丑年生まれの菅原道真公(菅公)は延喜三年の丑の日に亡くなられましたが、「自分の遺骸を牛にのせて人に引かせずに、その牛の行くところに留めよ」と遺言したところ、その牛は、黙々と東に歩いてある所で動かなくなり、そこを御墓所と定め、それが後の大宰府天満宮となったと伝えられます。以後、牛は、天神さまのご眷属として、菅公とともに神聖視されるようになり、全国各地の天満宮の境内には「臥牛」の像が奉納されるようになりました。

当社にも、昨年三月の天満宮の新社殿竣工にあたり「臥牛」銅像が奉納されました。天神さまの御神徳により、牛の頭を撫でると頭が良くなり、あるいは悪い箇所を撫でると病気が治ると信じられており、「撫で牛」として親しまれています。



天満宮と撫で牛

さて、小職が今宮神社宮司を拝命した平成二十三年四月から、今春で十年の節目を迎えることとなります。宮司就任後、中町奉賛会の結成、龍神池周辺整備事業にはじまり、平成二十七年「稻荷社」、平成三十一年「新社殿」、令和二年「天満宮」の御造営を行い、御神域の整備

と社運隆昌に全力で取り組んでまいりました。これも、皆さまのご支援とご協力の賜と、改めて篤く御礼申し上げます。

昨年は、世界中がコロナ禍に見舞われ、まさに辛苦の年となりました。当社でも、恒例の祭典・神事は厳修しつつも、感染拡大防止の見地より、遠方からの崇敬者の参列をご遠慮いただくなど祭典の規模を縮小し、また奉納演奏や玉串拝礼、直会を一部省略するなどの対応を余儀なくされました。しかしながら、目に見えない敵との闘いと共存の中で、今年ほど、「神仏と人」「人と人」との「絆」が強く意識されたことはなかったようにも思います。「密」を避け、人との「間合い」を保つことを余儀なくされる状況下だからこそ、神仏との絆、人と人との心の絆を大切にしたいものです。

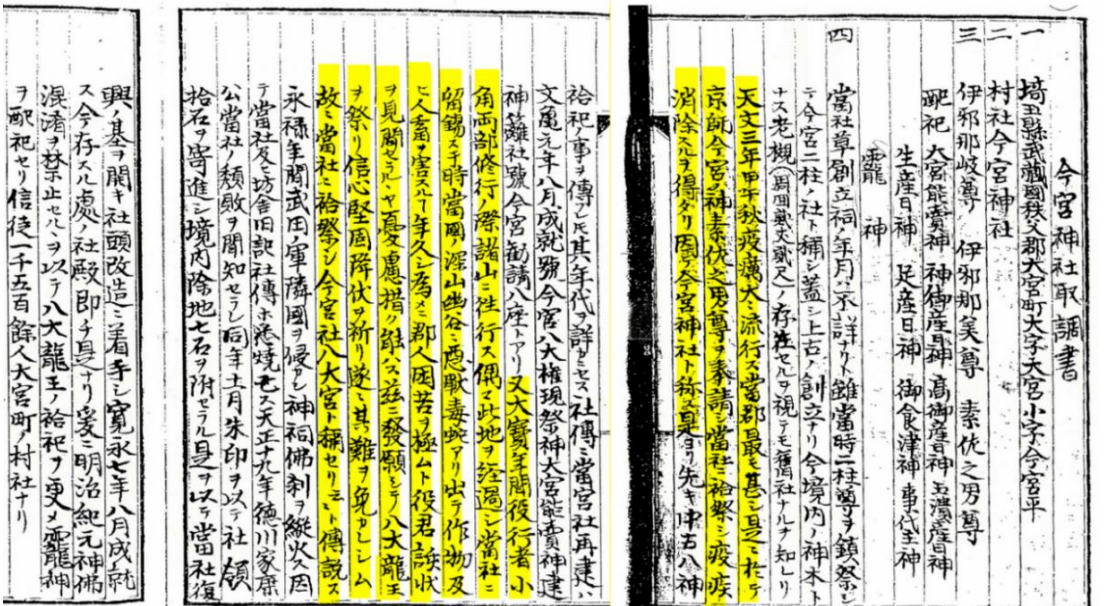
新型コロナウイルスの流行は、まだまだ予断を許しませんが、当社においても万全の感染対策を整えご参拝の皆様をお迎えする対策を講じております。皆様方にもぜひお運びいただき、祈りを共有して頂ければ誠に幸甚に存じます。

【悪疫退散への祈りと今宮神社】

一、役行者がこの地に八大龍王を祀る

当社の社伝によれば、この地には、古来より武甲山の伏流水が湧き出る霊池があり、ここに生命の源をつかさどる二柱の尊(伊邪那岐尊・伊邪那美尊)が祀られていました。

大宝年間(七〇一〜四)に、両部修行のため諸山往行していた役行者がこの地を訪れ、当社に立ち寄った際、この国の深山幽谷に悪獣毒蛇が出て長年にわたり作物や人畜を害しており、人々が困っていることを聞きました。村人たちの訴えを聞いた役行者は、このままにはしておけぬと発心して仏法の守護神である「八大龍王」を祀り、信心堅固に降伏



するよう祈ったところ、遂に悪獣毒蛇らは屈服し、村人たちは難を免れることができた。そこで村人たちは、当社に八大龍王を合わせ祀り、以後「八大宮」「八大権現社」と称するようになりました。役行者が当社に祀った八大龍王は、水の神、仏法を守る神であり観音菩薩から慈悲の心(宝珠・玉)をいただいた神様です。四月四日の秩父神社のお田植え祭は、今宮神社の霊水をいただきに來られることから始まります。このように、役行者と八大龍王は、秩父霊場や秩父の人々の生活に深く係わられて、今日の秩父発展の礎となられました。

二、疫病の流行と「今宮神社」の創建

古来、日本人は、都で疫病が流行すると「御霊会」(ごりょうえ)を営み、疫病の鎮静化を祈願しました。

当社社伝によれば、天文三年(西暦一五三四年)の秋、我が国では疫病が大流行。特に秩父地方は甚大な災難に見舞われました。そこで、秩父の村人たちは、当時盛んに「御霊会」が営まれていた京の都の「今宮社」より、悪疫退散の強いお働きをお持ちの「素佐之盞尊」(スサノオノミコト)を勧請して当地にお祀りしたところ、大神さまのお働きにより、疫疾をすっかり消し去ることができたのです。以後、素佐之盞の大神さまへの報恩感謝と都の「今宮社」への敬意から、当社は『今宮さま』として尊崇を集めるようになり、「今宮神社」「今宮八大宮」と称することとなったのです。

三、見えない敵との闘いと神仏への祈り

このような見えない敵との戦い。人間の力だけでは乗り越えられない災難に見舞われたとき、古来私たちは神仏のお力をお頼みしてその退散・鎮静を祈り、災厄を乗り越えてきました。当社でも、八大龍王神をお祀りする「龍神祭」、役行者さまをお祀りする「役尊神祭」、伊邪那岐尊・伊邪那美尊・素戔嗚尊等をお祀りする「例大祭」など、其々のお祭りの中で、神恩感謝と災難消除・身体守護の祈りを捧げております。

現在、新型コロナウイルスの流行を受けて、各地の大切な祭礼行事が中止や延期に追い込まれています。しかしながら、こういう時こそ、古来続けられてきた神仏への祈りと祭祀をきちんと続けてゆく必要があります。皆様のご健康ならびに身体の安全、ご隆昌を心よりお祈り申し上げます。

【天満宮新社殿竣工のご報告】

今宮神社の御垣内に由緒ある天神様のお社を約六十年ぶりに再興。令和二年三月、東風が吹き、梅香る弥生月の佳き日を選び定めて「遷座祭」ならびに「竣功祭」を斎行いたしました。

【天神さま】天満宮は、菅原道真公(天満大自在天神)をご祭神とするお社です。菅原道真公(管公)は平安時代に京の都で生まれ、幼少時より勉学に励み、秀才の呼び声も高く、また武芸の道にも才能を表されました。文武両道に優れた管公は、異例の出世を遂げ、帝より右大臣の位を賜るまでになりましたが、時の左大臣・藤原時平の策略により、無実の罪で九州太宰府に左遷されることとなりました。大宰府にあってても帝を逆恨みするとなく、ひたすらに日本と皇室の安泰を祈り続けるも、延喜三年(九〇三年)二月二十五日、失意の内に五十九歳のご生涯を終え、その墓所が現在の太宰府天満宮となりました。



今宮天満宮 (令和2年3月8日竣工)



檜彫りの天神像は樹齢約百五十年の檜の切株の上に祀られている。

【今宮天満宮】安政六年(一八五九年)、秩父中町の久保庄左衛門が、上町の舛屋利兵衛を通じて請けた京都の北野天満宮九百五十年御忌の御神札を当社に奉納し、衆人がお詣りできるよう天満宮が建立されました。

昭和三十年代に、境内整備のため、仮本殿に合祀されましたが、令和の境内整備事業に伴い、令和二年三月、新社殿が完成しました。社殿内部には、かつてこの地に聳えていた樹齢約百五十年の檜の御神木の切株に、檜彫りの管公座像をお祀りしています。

【巨大絵馬】

丑年の新年に巨大絵馬のご奉納をいただきました。



横瀬町立横瀬中学校の生徒さんたちによる力作です。社殿右手に展示しております。

【今年度の行事予定】

- ・ 一月一日 歳旦祭
- ・ 二月四日 立春祭
- ・ 四月四日 龍神祭・水分祭
- ・ 六月六日 役尊神祭
- ・ 六月三十日 夏越大祓
- ・ 九月二十八日 例大祭
- ・ 十二月三十一日 年越大祓

各行事につきましては、随時ご案内申し上げますのでお誘いあわせのうえご参加下さい。



龍神祭・水分祭(4月4日)

管公が、左遷先の太宰府で亡くなった後、都では、管公の左遷を策略した藤原氏の一族が相次いで落雷によって死去し、さらに日蝕・地震・彗星・落雷などの天変地異、干ばつ、洪水などの災害等による農作物の被害をはじめ、さらには疫病が大流行して、世の人々は不安に陥りました。管公の怒りが雷の形で現れると信じられた人々の信仰は、藤原氏をはじめとする都の貴族たちには恐怖と畏怖の念で捉えられ、その怨霊を鎮めるため京都に北野天満宮を建立して祀りましたが、農民には水田耕作に必要な雨と水をもたらす雷神(天神)として、稲の実りを授ける神として広く全国に崇敬されるようになり、後に「天満大自在天神」と諡名されることとなりました。

やがて、管公の学問に対する偉大な事績やその人柄から、文学・詩歌・芸能の神、あるいは慈悲の神として崇められるようになり、現代においては、学業成就、合格祈願、立身出世の守り神として信仰を集めています。



役尊神祭(六月六日)



夏越大祓(六月晦日)



例大祭(九月二十八日)